

## 第27回 奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催のご案内

### いつまでも元気な脳でいるために ー科学が教える脳の健康習慣ー

脳科学は近年ますます進歩し、年齢を重ねても脳は柔軟に変化し続けることがわかってきました。認知機能の低下を防ぎ健康で充実した生活を送るためには、日々の生活習慣や脳の使い方が重要です。本講演では、最新の脳研究から判ってきた運動や食事、社会参加、脳トレーニングなど具体的な成果をわかりやすく紹介します。地域で暮らす皆さんが、自分のペースで無理なく取り入れられるヒントもお伝えできればと考えています。

**開催予定** 日時：9月13日(土) 13:30～15:00  
場所：奈良学園大学 1号館 4階 1409教室  
定員：30名(定員に達しましたら、募集を締め切らせていただきます)

こちらから  
申込みください。



奈良学園大学  
保健医療学部  
リハビリテーション学科  
中田 修 先生



第27回登美ヶ丘カレッジ  
申込フォーム

## 第28回 奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催のご案内

### 空間(図形)の分類の方法について



子どもの頃から馴染みのある三角形・四角形・円をはじめ、多くの図形は、ある条件のもとで分類することができます。ここでは、条件を変更することで、どのように図形が分類できるのかを考察したいと思います。また、三角比を使うことによってケーキをどのようにカットすると、効率的かをお話したいと思います。最後に正多面体が5個しかないことにも触れたいと思います。

**開催予定** 日時：10月18日(土) 13:30～15:00  
場所：奈良学園大学 3号館 1階 3101教室  
定員：30名(定員に達しましたら、募集を締め切らせていただきます)

こちらから  
申込みください。



奈良学園大学  
人間教育学部  
人間教育学科  
原口 忠之 先生



第28回登美ヶ丘カレッジ  
申込フォーム

## ニューズレター第17号 編集後記

梅雨入りの知らせとともに、紫陽花が美しく色づく季節となりました。今年は例年より少し遅い梅雨入りとのことですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。雨に濡れた木々の緑がいつそう深みを増すこの時期、日々の歩みのなかでふと立ち止まり、季節の移ろいに目を向けることが心に潤いをもたらしてくれるかもしれません。

さて、本号では、第24回・25回登美ヶ丘カレッジの報告をはじめ、学生や卒業生の地域での活動、新任学部長のご挨拶、教員紹介など、多彩な話題をお届けしました。とりわけ「慢性痛」や「漢文にみるレジリエンス」など、日常の悩みや困難に向き合う学びの時間は、現代を生きる私たちにとって多くの気づきを与えてくれるものでした。また、奈良の学生たちが地域の課題に取り組む「奈良の学生MeetUp」や、本学卒業生が世界理学療法会議で発表する姿には、若い力の広がりや希望を感じます。こうした実践の積み重ねが、地域と世界をつなぐ架け橋となっていくことを願ってやみません。

今後の登美ヶ丘カレッジでは、脳科学や図形の分類をテーマにした新たな講座も予定しています。引き続き、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。どうぞ穏やかな初夏のひとときをお過ごしください。



奈良学園大学  
社会・国際連携センター長  
伊藤 健一

発行

奈良学園大学  
社会・国際連携センター

〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1  
TEL: 0742-93-5405 FAX: 0742-95-9850

## 各種公開講座が開催されました

### 第24回登美ヶ丘カレッジ開催

『実は・・・』がいっぱい!“痛み”のはなし 誰でもできるその対策  
日時：2025年2月8日(土) 13:30～15:00  
講師：保健医療学部リハビリテーション学科 前田 吉樹 先生



今回は、身近な長引く痛み——いわゆる「慢性痛」の実態と対策についてお話をさせていただきました。

講座では、慢性痛に関する多くのご質問やご意見をいただき、皆様の関心の高さを改めて実感いたしました。なかでも、「痛みを理解のある医療機関が少ない」といったお声は非常に印象的であり、医療現場における対応のばらつきが、患者さんの不安につながっている現状を浮き彫りにしていると感じました。

そのような背景の中で、講話内でもご紹介した厚生労働省による「慢性疼痛診療システム均てん化等事業」のような取り組みは、誰もが適切な診療にアクセスできる体制を整えるうえで非常に重要であると、改めて認識する機会となりました。

今後も、皆さまが「納得」して受け取れる健康知識や支援情報をお届けできるよう、活動を続けてまいります。また新たな機会に、皆様とお会いできることを楽しみにしております。ご参加、誠にありがとうございました。

文責：前田吉樹

### 第25回登美ヶ丘カレッジ開催

中国古典文学思想をふまえた生き抜く知恵～次代の子どもたちにレジリエンスを伝える～  
日時：2025年5月17日(土) 13:30～15:00  
講師：人間教育学部人間教育学科 富山 敦史 先生

第25回目の登美ヶ丘カレッジは、「中国古典文学思想をふまえた生き抜く知恵～次代の子どもたちにレジリエンスを伝える～」をテーマとして開催いたしました。

最初に漢文に対する中高生の反応や指導上の課題を確認した後、中国古典文学思想が内包する多様な「生き抜く知恵」を学校の授業に設定することで、子どもたちが多様な生き方を肯定し、逆境を跳ね返し強かに生き抜く力(レジリエンス)を高めるヒントとなる漢文のエピソードをお話しました。そして最後に、これらのレジリエンスを次代に伝えていくには、多様な体験を持つシニア世代の地域社会での活躍(ネガティブ・ケイパビリティの概念を踏まえた地域の居場所づくり等)が、「ケアシケアされる環境」を創り出せる契機となることを提案しました。皆様からは、今後も多様な形での地域貢献活動を大学に期待するというご意見をいただきました。

文責：富山敦史



## 奈良市のご紹介

奈良市 総合政策部 秘書広報課  
課長補佐 高松 明弘

奈良市は、歴史と自然が調和する国際文化観光都市として知られる一方で、今、新たな活力を育むまちとして注目されています。6年連続で転入者数が転出者数を上回る「転入超過」となっており、特に2022年には、子育て世帯の転入超過数が関西1位になりました。子育て支援や教育環境の充実が、移住を検討される方々からも高い評価を得ています。



現在、奈良市に通う高校生・大学生が集い、地域でのプロジェクトに参加したい学生と、仲間を求める学生団体をつなぐ「奈良の学生MeetUp」を4年前から年2回開催しています。まちの課題に若い視点から取り組むプロジェクトが数多く生まれ、学生たちの地域への関心や実践力が育まれています。奈良市で学ぶことを選んだ学生が「奈良で学生生活を過ごせて良かった」「奈良に住み続けたい」と思ってもらえることを願っています。

学生を応援する情報は「奈良市公式LINE」でも配信しており、11万人以上の登録があります。奈良市は、こうした人と人、人と地域をつなぐ取り組みを大切にしながら、これからも「選ばれるまち 奈良」を目指して歩みを進めてまいります。



## ご挨拶



奈良学園大学  
人間教育学部 学部長  
根岸 章

令和7年4月より、人間教育学部長に就任いたしました。この紙面では、3年前の人間教育学科長就任の際に、地域の皆様との交流を主眼としたご挨拶をさせていただきましたが、この考えは今でも変わっておりません。

この3年の間に、教員養成系学部状況も大きく変化しました。教員の長時間労働がマスコミでもクローズアップされ、結果として、教員を志望する生徒の減少と教員採用試験の志願倍率の減少を招きました。その対策として文部科学省を中心とした教員の働き方改革の推進や教員採用試験の早期化も新聞等で取り上げられています。

奈良学園大学人間教育学部は、初代学長であられる梶田勲先生の「子供1人ひとりの个性的で主体的な成長を実現する」ため、そのような理念を共有する学校教員を輩出する使命を持って、学生の教育を行っています。教員養成系学部の厳しい現状はありますが、自分たちの教育に誇りを持って、一人でも多くの人間教育の理念を共にする教員を育てていきます。

これからも、地域の人たちと共に地域の子供たちを育てるお手伝いをする事を念頭に、地域とともに発展を目指していきます。人間教育学部の将来にご期待ください。

## 奈良学園大学の教員紹介

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科

中田 浩司 先生



専門は18世紀フランス教育思想です。大学の授業では教職入門や教育原理といった教職の意義、教育の理念に関する科目を担当しています。

出身は大阪ですが、子どもの頃から学校の遠足や家族との旅行、また大人になってからも外国人研究者のアテンドで奈良の史跡をたくさん訪れてきました。悠久の歴史を持つ古都の魅力に感嘆を覚えるばかりです。

「令和」の典拠となった『万葉集』誕生の地で、今後の社会を担う教員の育成に貢献したいと考えています。

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

林 文子 先生



私は小児看護学を担当し、研究分野は「子どもを健康に育てるための養育者のサポート」で、最近の子育て事情と医療の様々な課題をベースに、子どもと家族がより健康で明るく生きるための支援を探索しています。

今や情報は簡単に手に入り知りたいことを考えてくれるAIなども登場し、子どもでも簡単に触れることができる社会となりましたが、親と子が生き抜く力に影響していたり、ひと昔前では考えにくい子育ての悩みなどが増え、医療現場で出会う場合にもその影響を感じています。子どもは環境にかかわらず、今も昔も子どもらしく育つことはその後の成長にとっても大切だと考えています。医療に関係するところでの支援ではありますが、その機会を通して養育者の方々の気持ちを支えることと将来社会に出て活躍する学生に伝えていくこと、小さなことしかできませんが、これがこの分野での私の重要な役割ではないかと思って頑張っています。

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

永田 優馬 先生



作業療法学専攻助教の永田優馬と申します。私は認知症の臨床研究を軸に、疾患別・重症度別の個別支援でQoL・ADLを向上する方法を探究しています。またICTを用いた在宅支援や若年性認知症の地域活動にも取り組んでいます。ここ最近は、若年性認知症の方々とコーヒー豆焙煎や蕎麦打ち、クラフトコーラ作りに挑戦中です。研究と実践の両輪で地域医療に貢献したいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 卒業生からのメッセージ



奈良学園大学  
保健医療学部  
看護学科  
5期生  
中窪 真聖 さん

僕は卒業して3年です。大学病院の心臓血管外科、呼吸器外科・内科、放射線科の混合病棟で勤務しています。大動脈解離、肺癌、閉塞性動脈硬化症など、様々な疾患の患者様や、手術直後から終末期の患者様など重症な患者様も多くいらっしゃいます。その中で、日々看護の責任を感じながら、一つ一つのケアを大切に勤務します。バイタルサインの変動や呼吸器からの重要な情報を見逃してしまわないよう、注意しています。初めはとても難しく自分には無理だと思ってしまう事も多々ありましたが、様々な貴重な経験をし、さらに学習を深めるようにしながら日々勤務させていただいています。

## 在学生からのメッセージ



奈良学園大学  
保健医療学部  
リハビリテーション学科  
3回生  
井坂 詞音 さん

私は、多くの方を支える事の出来る理学療法士を目指しています。きっかけは、中学・高校共に怪我に悩まされ、満足に部活動に打ち込めなかった為、自分のような人を少しでも減らしたいと思い理学療法士を志しました。しかし、大学で多くのことを学ぶうちに、スポーツだけでなく日常生活から困っている人も支えたいと考えるようになり、今の目標ができました。大学では、学ぶ事が多く難しいですが、友達と共に切磋琢磨しお互い良い理学療法士になれるよう共に頑張ります。

## 世界理学療法会議 2025 での発表を終えて

このたび、東京で開催された世界理学療法会議2025 (WPT) で、大学在学中に取り組んだ卒業研究を英語ポスターとして発表する機会をいただきました。研究テーマは「SNSの使用と痛みの感じ方との関連」で、ゼミの指導教員である前田吉樹先生のご指導のもと、まとめた成果を国際舞台で発表できたことは大変貴重な経験となりました。英語での説明や質疑応答には不安もありましたが、先生方の丁寧なサポートのおかげで安心して臨むことができました。海外の参加者の方から興味深い質問やコメントをいただき、自分の視野が広がるのを感じました。現在は、大学の近隣にある学研都市病院で理学療法士として日々学びながら働いています。今回の経験を通して、学会や研究発表のような場にも少しずつ関わっていけたらと思っています。

文：村上 和花 (リハビリテーション学科 卒業生)

文責：前田 吉樹

